

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

12 December

9~11日 エネルギー環境新素材拠点「新規な物性とエレクトロニクス」の開拓を目指した界面科学に関する国際ワークショップを開催

9日 アクチニウム研究センターは、異分野とアクチニウム工学の融合について考える「第9回アクチニウムシンポジウム」を開催



11日 地域との交流イベント「2013岡山大学つるかむデー」を開催。また同日から25日までマスカットニオン周辺でイルミネーションを点灯

11日 博物館と大学の連携について考える学芸員課程フォーラム地域の博物館と大学を開催

17日 第40回岡大サイエンスカフェを開催

17日 研究者自身が企業関係者らに実用化を展望した技術説明を行い、広く実施企業共同研究パートナーを募る「2013年度岡山大学新技術説明会を東京で開催

18日 定例記者発表を開催

20日 環境管理センターは、環境マネジメントについて学ぶ第12回サステイナブルセミナーを開催

1日 耐震安全安心センターを設置

3日 大学院社会文化科学研究科の新納泉教授と資源植物科学研究所の馬建鋒教授が、地域社会への貢献や国際舞台での活躍が顕著な個人・団体に贈られる「第72回山陽新聞賞」の学術功労賞を受賞

7日 岡山大学病院は、高校生を対象とした講演会「最先端医療への道」を開催



7日 大学院自然科学研究科の高井和彦教授が第66回日本化学会賞を受賞

10日 メンタルヘルス対策の一環として本学全構成員に向けて「こころの健康宣言」を発表

10日 自然生命科学研究支援センター公開「ロキウム」を開催

14日 アフリカ地域の小学校教員など教育関係者が、本学教員の指導のもと初等理科教育を学ぶ研修がスタート。研修期間は3月7日までの約2カ月間

22日 地域総合研究センターは、今年度の活動成果を発表する成果報告会を開催

28日 「グローバル人材育成」推進フォーラムを開催

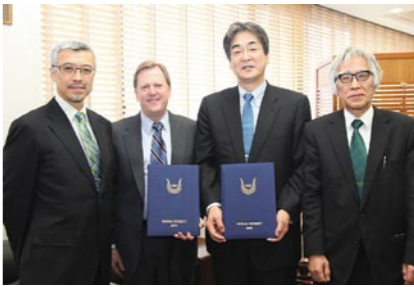
28日 日刊工業新聞社主催の「第12回キャンパスベンチャーグランプリ中国」学生によるビジネスアイデア提案コンテストで大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム工学専攻の大学院生12人が提案した4件のアイデアが優秀賞1件、奨励賞2件、佳作1件を受賞



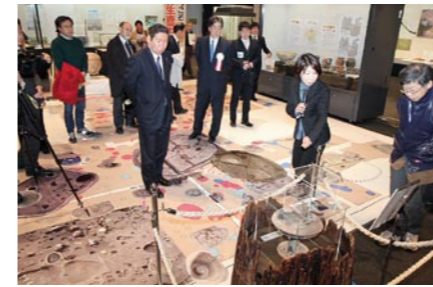
2 February

6日 生種補助医療技術教育研究センターの看板掲揚式を開催

6日 米国ウエイン州立大学と大学間協定を締結



7~23日 鹿田地区の鹿田遺跡発掘30年を記念し、同遺跡の出土品を展示する「鹿田発掘30年弥生時代を語る」埋蔵文化財調査研究センターなど主催を岡山シティミュージアムで開催



19日 大学院社会文化科学研究科の倉地克直教授が、岡山県の文化向上に著しく貢献した個人・団体を称える「平成25年度岡山県文化賞」を受賞

20日 定例記者発表を開催

24日 大学院医歯薬学総合研究科の滝川正春教授が「平成25年度日本歯科医学会会長賞」を受賞

25・26日 平成26年度個別学力検査等前期日程を実施

27日 第41回岡大サイエンスカフェを開催

3 March

7日 前期日程の合格者を発表



10日 優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「岡山大学若手トップリサーチャー研究奨励賞」に岡山大学病院の江國大輔講師を選出し表彰

研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の藤原俊義教授らの研究グループは、腫瘍融解ウイルス「ニトロメライシン」が、休眠状態にある細胞周期を回転させることで、効率よく胃がん幹細胞を殺傷することを世界で初めて明らかにした。米国科学雑誌「Clinical Cancer Research」に掲載され、同誌の「Highlights」にも選出。12月・定例発表

■大学院医歯薬学総合研究科の公文裕巳教授らの研究グループは、石灰化しつつ自己増殖する新規の生命体として長く論争が続いている「ナノバクテリア」の正体を世界で初めて突き止めた。国際医学系雑誌「Nanomedicine」に掲載。12月・定例発表

■地球物質科学研究センターの中村栄三教授らの研究グループは、大規模な爆発的噴火を引き起こす酸性火成岩マグマは、ある程度以上の量が溜まれば、その浮力だけでもマグマ溜まりの天井を破壊して地表へ向かって上昇し、巨大カルデラを伴う大噴火を起こし得ることを発見した。国際科学雑誌「Nature Geoscience」に掲載。1月・臨時発表

■大学院自然科学研究科の吉井大志助教授、富岡憲治教授らの研究グループは、キヨロシウジョウバエを用いて、オスの一日の行動リズムがメスのリズムによって影響を受けることを明らかにした。また、メスの接触により、オスの脳内時計細胞に影響が現れることを世界で初めて突き止めた。米国のオンライン科学雑誌「PLOS One」に掲載。1月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の松井秀樹教授らの研究グループは、悪性脳腫瘍が脳内に広がるメカニズムを世界で初めて特定した。米国の癌研究専門雑誌「Neoplasia」に掲載。1月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の助川信太郎大学院生、宮脇卓也教授、長塚仁教授らの研究グループは、現在広く臨床で使用されている鎮静薬「デクスメトミジン」を局所に投与することにより、投与部位の炎症を抑制するという新たな薬理作用を世界で初めて明らかにした。国際雑誌「Anesthesia and Analgesia」に掲載。2月・臨時発表

■大学院自然科学研究科の樋本和大学院生、松本正和准教授、田中秀樹教授の研究チームは、高温高圧で氷が融ける新しいメカニズムを発見した。イギリス王立化学協会「国際科学雑誌「Physical Chemistry Chemical Physics」」に掲載。2月・臨時発表

■大学院医歯薬学総合研究科の公文裕巳教授、豊岡伸一教授、岡山大学病院の那須保友教授は、がん治療遺伝子「miR-101」による悪性上皮腫治療の安全性と効果を検証する臨床研究が、国の厚生科学審議会科学技術部会で承認され、4月にも患者への投与を始める。2月・臨時発表

■医歯薬学総合研究科の古田和幸助教らの研究グループは、樹状細胞に発現し病原体などの抗原提示を担うタンパク質である、主要組織適合抗原クラスIIの、細胞における輸送と分解の制御機構を解明した。「米国科学アカデミー紀要」に掲載。2月・定例発表

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、マウス脳細胞を利用して幹細胞の作り出す環境が、がん細胞の悪性化や転移を促進する可能性があることを世界で初めて明らかにした。米国がん研究科学雑誌「American Journal of Cancer Research」に掲載。2月・定例発表

■資源植物科学研究科は、自然生命科学研究支援センターと共同し、東日本大震災に伴う原発事故による放射能汚染農地において、放射性セシウムが植物体から植物体への移行係数について、野生植物99種について調査するとともに、雑草群落への移行係数を推定した。日本植物学会の国際学術誌「Journal of Plant Research」に掲載。2月・定例発表

■大学院自然科学研究科の奥田潔教授らの研究グループは、妊娠時のホルモン分泌をつかさどる黄体が、細胞の肥大のみではなく、細胞の増殖によっても成長することを世界で初めて発見した。米国のオンライン科学雑誌「PLOS One」に掲載。3月・臨時発表